インターネットと連動した 【滋賀生活情報紙】

この情報紙は「滋賀ガイド」と提携しています

www.gaido.jp

vol.376・7月21日号 毎週木曜発行 4面にプレゼント情報!

●Oh!Me編集室/株式会社ヤマプラ:近江八幡市桜宮町294 TEL0748-34-8872 FAX0748-34-8927

発行部数:100,000部 ●広告/滋賀毎日広告社:大津市打出浜3-16 TEL077-522-2603

每日新聞大阪本社開発宣伝部:大阪市北区梅田3-4-5





新 聞

毎 日

長浜市で60年以上提灯職人とし て活躍する中川善輝さん。祭事 や盆の飾り付けなど人々の暮ら しに古くから親しまれている提 灯は、滋賀県知事指定伝統的工 芸品に選ばれている。

幼いころから家業手伝い

ろうそくの明かりが和紙にぼんやりと 映り、柔らかな光が周囲のたたずまい をやさしく浮かび上がらせる。人の心

を癒やしてくれる提灯の明か りは、電灯や蛍光灯では味わ えない独特の光の世界をもた らしてくれる。

提灯を製造・販売する中川さん の店「かさぜん」は、昔ながら の技術を守っている。昭和30 ~40年代には長浜市内に6、7

なった。もともとちりめん屋だったが、 祖父が傘と提灯を作り始め、中川さん で3代目になる。小さいころから仕事 を手伝い、15歳で本格的に傘作りや提 灯作りを始めた。以来、六十余年。提 灯一筋に歩んできた。

特注の墨で文字入れ

他の職人さんが作った火袋(紙の覆い

軒あった提灯屋も今では2軒だけに

を仕入れて、 文字入れや絵 付けをする。 屋外用のもの

をした部分)

には油引き(防 水加工)をし て1日乾かし、 ろうそく台な ど部品を取り 付ける。

手仕事のため1日で数個しかでき上が らない根気のいる作業だ。

このうち一番緊張するのは字を書く作 業だという。提灯には神社仏閣の名称 や家紋、曳山まつりなら山の名前、山 の紋などを描き入れることが多い。最 高の美しい文字で書いて、喜んでもら いたい。特注の墨を2時間かけて丁寧 にする。この墨を使うと文字を書いた ときの光沢の美しさが全く違う。

文字はズレや失敗が許されないので、 意識を集中して一気に書き上げる。

「火袋が破れた提灯の修理もします。 修理しながら大事に使うと何十年も使 えるんですよ。古びた提灯が見事に新 しい提灯に生まれ変わる瞬間はとても うれしいです」

丁寧な仕事を次世代に

湖北地方では昭和30年代まで、嫁入 り道具で持参した提灯にろうそくをと もし、近所に嫁入りのあいさつ回りを する習わしがあった(嫁入り提灯)。

暮らしの道具としての主役の座を降り た提灯だが、祭事の世界では今でも活 躍している。お盆で先祖を供養するた めに玄関や仏壇などの前に飾る。

全国三大山車祭りとして400年以上の 伝統がある長浜曳山まつりでも提灯は 欠かせない。提灯をともした曳山が勢 ぞろいする光景は幻想的だ。

「自分が作った提灯が活躍している姿 を見ると胸が熱くなります。伝統産業 にかかわる職人が年々少なくなってい るのは寂しいですね。 先代は 100 歳ま で長生きしました。私も健康に気をつ け、元気なうちは提灯作りをしたい。 丁寧な仕事をして次の世代へ伝統を伝











